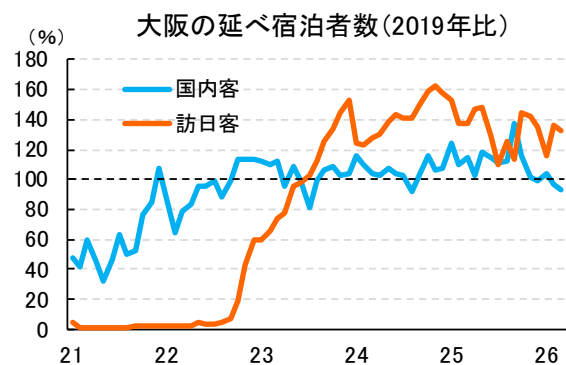
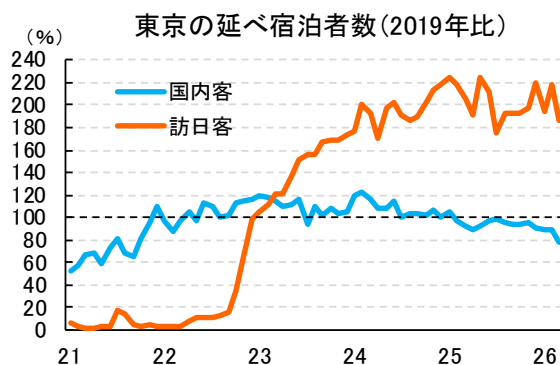
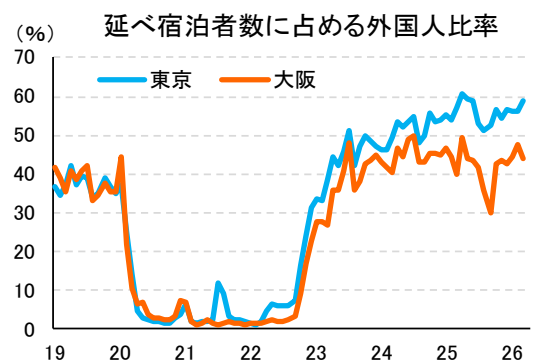
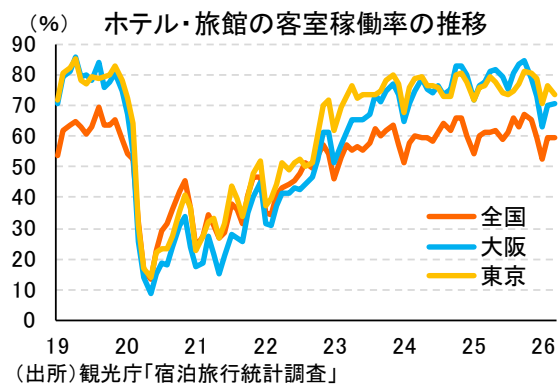


関西の景気トピックス【ホテル稼働率（26年3月）】

- 26年3月の宿泊旅行統計調査（観光庁）によると、季節的な動きもあり、やや低調な推移となる中、前年比でも全体的にマイナス傾向となっている。特に大阪の下振れが目立つ。これは主に昨年の万博開催に伴う反動減のほか、中国の渡航自粛の影響も出ているとみられる。
- 延べ宿泊者数に占める外国人比率については、東京と大阪の格差が開いている。東京が50%を上回る水準で、直近も右上がりの推移が続く一方、大阪は40%台で推移している。足元に関しては、中国の渡航自粛による影響も出ているとみられる。
- 延べ宿泊者数のコロナ前比（19年比）について、国内客、訪日客の動きをみると、東京と大阪のトレンドには大きな違いがみられる。大阪は足元で外国人の動きがやや鈍化傾向にある一方、国内客も直近はコロナ前を下回る形となっている。一方、東京は料金の高騰などにより、国内客の動きが鈍い一方、外国人客は増加傾向が続いている。水準としてはコロナ前の2倍を上回るなど、外国人客の需要は好調が続いている。



本件照会先:大阪本社 荒木秀之
 TEL:06(4705)3635 mail:hd-araki@rri.co.jp